

施策 No.	政策名	活力ある産業のまちづくり	主管課	農林課	主管課長名	秋山 豊
4-1	施策名	農林業の振興	関係課	農業委員会、商工観光課、生活環境課、給食センター、ヤマザクラ課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	農業者 担い手が育成されて、農業が活発に営まれている。	①販売農家戸数	見込値	人		1,600	1,580	1,560	1,540	1,520
実績値						1,581	1,581	1,581		
見込値			人							
					実績値					
見込値										
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
		①市内の農業所得総額	千円		目標値	380,000	390,000	400,000	410,000	420,000
					実績値	548,119	710,249	561,030		
		②認定農業者数	人		目標値	285	290	295	300	310
	実績値				280	276	260			
	③耕作放棄地面積	a		目標値	4,107.0	4,153.0	4,199.0	4,245.0	4,291.0	
				実績値	4,760.0	5,173.0	5,242.0			
	④山林整備面積	ha		目標値	16.5	15.0	15.0	15.0	15.0	
				実績値	16.8	9.97	8.14			
	⑤有害鳥獣捕獲頭数	頭		目標値	750	750	750	750	750	
				実績値	793	1,296	1,247			
成果指標設定の考え方	農業が活発になるためには、地域農業の担い手である認定農業者の増加に加え、農業従事者の所得向上が不可欠である。また、それらを満たす条件として、耕作放棄地の減少や有害鳥獣の駆除などの農村環境の整備が必要である。									
成果指標の把握方法と算定式等	①「市内の農業所得総額」－税務課の課税データ ②「認定農業者数」－農林課所管の認定農業者名簿 ③「耕作放棄地面積」－農業委員会所管の耕作放棄地調査表 ④「山林整備面積」－農林課所管の森林整備事業実施面積 ⑤「有害鳥獣捕獲頭数」－農林課所管の有害捕獲計画									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①農業所得については、平成30年度で710,249千円、令和元年度561,030千円と減少している。令和元年度については台風15・19号の天候不順等の要因により減少となった。 ②認定農業者数は、平成30年度は276人、令和元年度は260人と減少している。これは、認定農業者の死亡及び高齢化による未就農が考えられる。また、認定農業者数は減っているが認定農業者一人当たりの集積面積が増えている状況にあり、集積率は平成30年度49.5%に対し令和元年度が50.5%と1%増加している。 ③耕作放棄地については、担い手への集積が増加し農地へ再生された面積が増加したため、平成30年度5,173a、令和元年度5,242aと69aの増加にとどまった。 ④山林整備面積については、令和元年度は8.14haで前年度に比べ1.83ha減少している。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、平成30年度の捕獲頭数は1,296頭、令和元年度の捕獲頭数は1247頭であった。 ・5つの成果のうち、4つが前年度成果を下回ったため、成果がかなり低下したと評価する。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	①市内の農業所得総額は、目標値400,000千円に対し、561,030千円と目標値を上回った。 ②認定農業者数は、元年度目標値295人に対し260人と35人下回った。 ③耕作放棄地面積は、元年度目標値4,199aに対し5,242aと拡大し放棄地増加に歯止めがかかっていない状況である。 ④森林整備の要望による事業であり元年度目標値15.0haに対して8.14haと下回った。 ⑤有害鳥獣捕獲頭数は、元年度目標値である750頭に対して1,247頭と目標値を大きく上回った。 ・①～⑤について目標値を下回っているものが多いが、①農業所得、⑤有害鳥獣捕獲頭数が大幅に上回っているため「一部の成果指標で目標値を上回った。」とする。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
施策の目指す姿の実現に向けた取り組みの中で、以下の事業が大きく貢献したと考える。 ①市認定農業者育成事業：認定農業者等への支援により、新たに43haの農地集積を行った。 ②強い農業・担い手づくり総合支援事業：台風被害を受け、農業経営に影響が出た農家に対し、経営安定化のための支援を行った。 ③農業次世代人材投資事業：次世代の農業担い手を2名を確保し、支援事業に参加したことにより、担い手育成の推進することができた。 ④農業後継者育成事業：農業生産の中核的な担い手の育成のため、知識・技術の取得、経営の合理化、生産性向上の支援を行った。	・認定農業者は、減少傾向にあるが、農業法人化を進めることで量から質への転換を図っていく必要がある。このため農地集積による生産性の向上や各種助成制度を利用した効率的な農業経営を支援していく。 ・新規就農から地域農業の担い手へと段階的な支援を実施していく。 ・耕作放棄地については、農業委員及び農地利用最適化推進委員による実態把握調査を行い、耕作放棄地の解消に努めていく予定である。 ・有害鳥獣対策事業のインシジョン捕獲の担い手の確保及び育成を推進していく。